

高等学校ボランティアセミナー

1, 趣 旨

講義や体験活動を通して、施設ボランティアの意識を理解するとともに、リーダーとしての資質向上や実践的意欲を高め相互の交流を図る。

2, 期 日

平成26年9月27日(土)～28日(日) 1泊2日

3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 参加対象

高校生

5, 参加実績

人数 15名

(森高等学校11名、遺愛女子高等学校1名、八雲高等学校3名)

6, プログラム内容

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
27 土	12:30 受付 13:00 開会式	開 会 式	☆オリエンテーション ☆おもてなし練習			☆ボランティア同士の交流会 (野外炊事)			入 浴 自由時間	就 寝
28 日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		起床 掃除 洗顔	朝食	準 部 屋 点 検	主催事業「ネイパリンピック」へボランティア参加(実践)				閉 会 式	16:00 解散

7, 活動の様子

開会式では、阿部所長より「ネイパル森でのボランティア活動で交流をとおしながら、意欲的に学んでほしい」と挨拶。その後は、2日目に控えている主催事業「ネイパリンピック」の事業説明を行った。ネイパリンピックは過去1000人を超える来場者があり、高校生には各ブースを担当。そこで、「来場者にとって思い出に残る時間」になるよう活動してほしいと説明。

その後、「おもてなし練習」では実際に担当するブースのシュミレーションと準備を実施。シュミレーションをとおし、翌日に向けての意欲を高めることができた。夜は、ネイパリンピックのボランティア(大学生や社会人)と野外炊事。夕食を共にしながら、交流を図った。大学生や社会人のボランティアは、高校生にとって楽しい時間となるよう率先して話をしていく様子がみられた。また、それらのことを受け、野外炊事後はふりかえりを行った。大学生・社会人ボランティアは、高校生のために盛り上げたが、今度は高校生が翌日ネイパリンピックで来場者を楽しい時間となるよう活動していくため、[smile]というキーワードをあげて意欲と団結を高めていた。

2日目は、各ブースに分かれて活動を行った。参加者からは、「子ども達の楽しそうな様子が嬉しかった」「夜みんなで話し、一つの目標を決め、翌日、活かすことができた」と話していた。



8, 参加者の声

(以下アンケートより抜粋)

- ・他参加者と交流を楽しく深めることができ、また参加したいと思った。
- ・他の人の気持ちになって考えようと努力することができたので子どもたちに笑顔で接することができた。

- 子どもたちが笑顔になれるよう心掛けていったことで、子どもたちの笑顔を見ることができた。
- 1日目夕食の時、大学生の気遣いがとても心に残っている。その気遣いを参考にして二日目活動することができた。

9, 事業の分析と考察

本事業の趣旨が「講義や体験活動を通して、施設ボランティアの意識を理解するとともに、リーダーとしてのし施設向上と実践的意欲を高め相互の交流を図る。」である。

1日目夜に行ったふりかえりでは、日中実施した活動をふりかえった。ネイパリンピックに向けて、「心がけていきたい」ところを考えた。また、その中でも特に心がけていきたいところで「smile」というキーワードがあがった。一つの目標を全体で共有を図ることができたと考える。

二日目に主催「ネイパリンピック」で参加者はブースを担当し、来場者にとって楽しい時間となるよう活動を行った。参加者の声からも、「子どもたちの様子がとても心に残っている」という声があがっていた。

このことから、体験的に活動し施設ボランティアの意欲を高めていくことができたと考える。



10, 成果と課題

○成果

- ・昨年度の参加者 10 名（森高等学校 8 名、八雲高等学校 2 名）であったが、今年度は昨年度を上回る参加者人数であった。
- ・昨年度参加した 2 校が、今年度もこころよく参加した。
- ・4 月高校生・大学生・社会人を対象とした「ボランティアセミナーin ネイパル森」に参加した高校生数名が、今回も参加してくれた。
- ・本事業をきっかけに、ネイパル森のボランティア活動に興味を持ち登録者が 1 名あった。

○課題

- ・より多くの学校がきてもらえるよう、函館方面の高校へ広報活動を行う予定であったが、できなかった。
- ・今回の参加者が継続的に、今後のネイパル森ボランティア活動に参加してもらえるよう声をかけるなど、ボランティア活動に参加してもらえるようにしていきたい。

